金賞

「笑顔いっぱいの福島市へ」

福島市立平野中学校
大　野　みゆう

「ありがとう」

言葉に表せなくても思いは必ず伝わることを、私が知ったのは、小学六年生の頃です。

私の二歳年上の兄は、知的障害を伴う自閉症です。自分の思いを言葉で表現することが難しい兄は、感情をストレートにぶつけてくることが多く、私はそのたびに「嫌だ」「何で私ばかりつらい思いをしなくてはいけないんだ」と負の気持ちでいっぱいでした。

自分だけでなく、両親も兄にかかりっきりで、大変な思いをしていることもわかるようになった頃、母に一度だけ聞いたことがあります。「お母さんはつらくないの？」母は「ありがとう」と言って、私をぎゅっとだきしめてくれました。なぜか、涙があふれてきて、二人で泣いた日のことを覚えています。私は母のぬくもりを通して人は人によって支えられながら生きているんだよと教えてもらいました。

今回、「福島市民憲章」について考えた時に頭にうかんだことは、障害のある人たちの生き方でした。兄がどのようにして、人に支えられ生活しているのか理解できるきっかけにもなるし、福島市にはどんな福祉事業があるのか調べてみようと思いました。

- 未就学児の障害のある子どもが通い、支援を受ける「児童発達支援」
- 障害をもった未成年の子どもを療育する「放課後等デイサービス」
- 障害のある方が自分のペースで働く準備をしたり、仕事をおこなうことができる「就労継続支援」

さらに、将来のことを見すえ、グループホームや障害者後見人制度があることも知りました。障害のある人もない人も、共に支え合って生き生きと暮らせる福島市づくり条例があるからこそ、人はみんな「笑顔」でいられることがわかりました。

私の問いかけに、「ありがとう」とだけ言った母の気持ちが、何となくわかった気がします。

兄が二歳の時に自閉症と診断された時からずっと、母は心細くつらかっただろうと思います。家族の助けだけでは、どうにもならなかったこともあると思います。それでも母が兄と私の「笑顔」を守ってこれたのは、福島市の障害福祉サービス事業所を通じて人に支えられ、助け合って生きてこれたからなのだと理解することができました。

お互いに助け合い、励ましあって生活することで、みんなを「笑顔」に出来る福島市の障害福祉サービス事業は、すばらしいと思いました。

「ありがとう」

言葉に表せなくても、思いは必ず「笑顔」になって伝わるはずです。